

中国と日本を結ぶ季刊誌

かけはし

季刊 2017年秋号
2017年11月20日発行(第2巻第3号)

**5年に一度の党大会
中国共産党第19回全国代表大会をCRIが特集**

**CRI紅白歌比べ40周年記念特別企画
「中日歌唱コンテスト」**

**新コーナー
CRI日本語放送・北京放送OB・OGは今**

かけはし

季刊 2017年秋号
2017年11月20日発行(第2巻第3号)

目次

お便り募集のお知らせ

「かけはし」では読者の皆様の投稿を受け付けております。番組や冊子の感想のほか、中国旅行の思い出、エピソードなどをお便り・Eメールでお寄せください。

あて先

E-mail: riyubusns@126.com

郵便(中国): 100040 中国国際放送局日本語部「かけはし」編集部

- 01 中日国交正常化45周年記念事業ハイライト
- 02 中日国交正常化45年の歩み—あの日、その時
「45年目の声」～中日国交正常化45周年
記念レセプションから ……王穎穎
- 04 5年に一度の党大会 ……王穎穎
中国共産党第19回全国代表大会をCRIが特集
- 06 北京暮らし ……劉叡琳
北京の町巡り「万柳」
- 07 CRI日本語放送・北京放送OB・OGは今 ……王小燕
壺岐一郎さん(86歳)
- 08 百家姓物語 「金」 ……張怡康
- 09 日本で実践!中国語 ……張怡康・梅田謙
ゴミの捨て方を教える会話
- 10 あなたの知らない ……周莉
パンダあれこれ
- 11 56の民族、56輪の花 ……孟群
チワン族
- 12 CRI紅白歌比べ40周年記念特別企画 ……張怡康・程凡華
「中日歌唱コンテスト」
- 16 話 はなし 嘶 HANASHI ……李順然
天高气爽
- 18 新語で知る中国事情 ……謝東
キーワードチャイナ
- 19 日本人スタッフのつぶやき ……森雅継
「走る通訳兼ジャーナリスト」
- 20 イチオシ中国映画・中国音楽 ……関亦冰
映画編: 戦狼2など 音楽編: 仍是異郷人/織謡II
- 22 「和して同ぜず」東北アジア書画展2017北京
8月に開催 ……文化交流実行委員会
- 24 CRIインタビュー ……王小燕
旭東ダイカストグループ・山森一男会長 生涯現役
人生百歳～
- 26 中日交流カフェ ……高橋恵子・梅田謙
この夏、史上最多の日本人学生がCRIを訪問
- 28 リスナーからのお便り
編集後記



表紙の写真

画家・梅原竜三郎が描いた秋の北京。

1940年頃に彼が見たであろう景色を現代に尋ねた。変わりゆく都市の中で、今も変わらぬ紫禁城と西山がそこにはあった。

(提供: 北京貴賓楼飯店)

「かけはし」編集委員会

発行人 王丹丹

編集人 趙雲莎

編集 梅田謙

瀋 圓

王 帥

かけはし編集部

中国北京市石景山区石景山路甲16号

中国国際放送局日本語部内

電話 +86 10 6889 1272

E-mail riyubu@cri.com.cn

URL japanese.cri.cn

中日国交正常化45周年記念事業ハイライト

2017年7月から9月までに
CRIで取り上げたニュースの
中から抜粋しました。



7月12日
中日名家書画展「和暢」開幕式
(和歌山県民文化会館)

7月18日
第12回全中国選抜 日本語スピーチコンテスト
(日経ホール/東京)

8月4日
中日友好交流都市中学生卓球交歓大会
(オリンピック体育センター/北京)



・両国から計67組268人が参加
・同大会は1992年以降5年ごとに開催

8月26日
中日国交正常化45周年記念国際学術シンポジウム
(人民大会堂/北京)



・社会科学院の王偉光院長、
駐中国日本国大使館の横井裕大使、
唐家セン元国務委員、
日本国際貿易促進協会の河野洋平会長が出席



8月28日
2017中日友好大学生訪中団から日本の
大学生代表100人がCRIを訪問

8月29日
中日大学生千人交流大会
(北京大学百年記念講堂)



・2017中日友好大学生訪中の日本人大学生500名と
中国人大学生500名が参加
・中国国務院の劉延東副総理が出席

9月6日
中日国交正常化45周年記念講演会
(北京市人民対外友好協会)



・中国国際友人研究会と
北京市人民対外友好協会が共同主催

9月8日
中日国交正常化45周年記念レセプション
(人民大会堂/北京)



・全人代常務委員会秘書長と副委員長を兼務する王晨氏、
元国務委員で中日友好協会会長の唐家セン氏、
中国人民対外友好協会会長の李小林氏、
日本国際貿易促進協会の河野洋平会長らが出席



9月10日
CRI主催イベント 2017中日歌唱コンテスト決勝戦
(北京外国語大学)

9月12日
第12回中日ジャーナリスト交流会
(上海交通大学)



「民間の力」中日国交正常化45周年中日交流回顧写真展
(中国文化センター/東京)

9月22日

中国国慶節及び中日国交正常化45周年祝賀レセプション
・駐日中国大使館が主催 (ホテルニューオータニ/東京)
・日本側からは安倍晋三首相が外相らの閣僚を率いて出席

9月28日

中日国交正常化45年の歩み——あの日、その時 第三回

「45年目の声」～中日国交正常化45周年記念レセプションから

■王穎穎

45年前の9月29日金曜日、中日共同声明に調印がされ、周恩来首相と田中角栄首相が北京で固い握手を交わしました。それから45年目にあたる今年の9月8日、当時の関係者の親族や中日友好事業に携わる人々が人民大会堂で一堂に会し、国交正常化45周年を祝う「中日国交正常化45周年記念レセプション」が執り行われました。中国人民対外友好協会と中日友好協会が主催し、両国各界から300人あまりが出席するなど、この10年来で最大規模の式典となりました。ここでは、会場で集めた参加者たちの声をご紹介します。

本記事は、CRI日本向けラジオで2017年1月から毎週土曜日放送の「中日国交正常化45年の歩み——あの日、その時」の抜粋です。

インタビュー



■中日関係史学会 劉徳有 名誉会長

「今年は節目の年で、中日関係にとって非常に重要な年だと思います。今日、人民大会堂でこのような大規模なパーティーが開かれるということも2、3年前にはちょっと予想もしていませんでした。実現できたことをたいへん嬉しく思います。私は、中日両国が初心を忘れず、原点に戻って、平和友好を一つの大きな方向として、お互いに努力していかなければならないと考えております」



■長野県日中友好協会 西堀正司 理事長

「たいへん嬉しいです、記念の年ですから。友好協会は45年前のあの日までずっと、国交回復のための運動をやってきました。達成できた時は、本当に瞬間的に涙が出てきました。45年の間に両国の交流はすごく増えて、体力的にもたないかなとも思うくらいですが、どうにか45年が経ちました」



■中国社会科学院日本研究所 高洪 所長

「過去の45年の道を振り返ると、やはり大変な歴史を持つ歩みでした。両国政府、両国人民の努力によってスムーズに進んだところもあれば、色々な敏感な問題で、ぎくしゃくしたところもあります。これからの中日関係は、民間の信頼関係、政府・政治家の間の信頼関係を積み重ねて、双方の知恵のある選択によって関係を一步一步改善していく、そういうことを期待しております」



■衆議院議員 渡辺博道 氏

「日本と中国は世界経済の中で二番、三番という経済大国であることは間違いありません。したがって、国際社会で日中が友好関係を深めていくことは、この世界の平和を安定させていくための大変重要な役割を担っていると思っています。その実現を期待しております」

45年前の歴史的な出来事を振り返る時、必ず登場する2人の人物がいます。それは周恩来首相と田中角栄元首相です。当時、中日の国交回復にあたって、両国とも多くの困難に直面していました。しかし、双方の指導者の先見性と決断力によってこの局面は乗り越えられ、目標が達成されたのでした。

今回のレセプションには国交回復の立役者とも言える2人の親族として、周恩来首相の姪である周秉(ヘイ)徳氏と田中角栄首相の娘である田中眞紀子氏も出席しました。



■田中眞紀子 氏のスピーチ

「あの日のことは絶対に忘れられません。私はあるテレビ番組に生出演しながら中継を見ていました。北京空港に特別機がサーッと滑り込んだんです。——その時に周総理が歩み寄って来られたのです。画面でアップでした。カッコいい人だなあと思いました。そして、父が足早にタラップから降りてきて、二人がサーッと近づいて、手を握った瞬間、『ターンタタンタン〜♪』と中国の国歌がメディアを通じて日本中に流れた瞬間だったんです」



■周秉徳 氏のスピーチ

「中日両国の子供たちが一緒になって『茉莉花(ジャスミンの花)』と『四季の歌』を歌っているのを聴いて、とても感動しました。中日友好は世代々に受け継いでいくべきです。若者たち、子供たちがいなければ成り立ちません」

式典では、中国側を代表して中日友好協会の唐家璇(セン)会長と、日本側を代表して日本国際貿易促進協会の河野洋平会長が挨拶に立ちました。



■中日友好協会 唐家璇 会長の挨拶

「中日関係は今、重要なチャンスを迎えながらも、そこには軽視できない課題も存在します。双方は中日間の4つの政治文書と4つの原則的共通認識を基礎として、歴史を鑑とし、未来志向をもって、互いに脅威とならず、互いに協力のパートナーになるという共通認識を実行に移していかなければなりません。また、政治面では戦略的相互信頼を深めて、溝を適切に処理し、両国関係が正しい方向に沿って改善、発展するよう推進すべきです」



■日本国際貿易促進協会 河野洋平 会長の挨拶

「国際政治の大きな流れ、大きな揺れの中で、(日中の政治は)さまざまな場面にさらされました。しかし、そうした中にあっても、日中関係を前進させなければならないという信念はいささかも変わらず、努力をしてきた我々の同志、友人がたくさん増えたのです。日中関係をさらに前進させるための努力が私どもに必要だということを、痛感するこの頃です」



今回のレセプションは幕を閉じましたが、中日友好の幕は閉じることなく、両国の輝かしい共演が永遠に続くことを願ってやみません。5年後の2022年にはきっと、さらなる希望に満ちた「50年目の声」をお届けできることでしょう。



■王穎穎

(おう・えいえい)

2001年入局。

2005年から2007年まで、日本駐在特派記者として東京勤務。

帰国後、ニュースアナのほか、レギュラー番組：音楽網駅、ミュージックエアライン、歌で中国語を学ぶ、中国の旅、スポーツ中国、ビジネス最前線、ハイウェイ北京(火曜、木曜)などを担当。2013年中国新聞賞、2014年ゴールデンマイク賞人物賞を受賞。2014年副部長に就任。

特別企画

「中日国交正常化45年の歩み ——あの日、その時」

2017年1月から毎週土曜日

19:20～19:30に放送中

再放送:20:20～21:30

21:20～21:30

22:20～22:30

23:20～23:30

24:20～24:30

翌日7:20～7:30

8:20～8:30(全て日本時間)

CRI公式サイト「ネットラジオ」からもお聞きいただけます。

5年に一度の党大会 中国共産党第19回全国代表大会をCRIが特集

党大会とは？

中国共産党の全国代表大会(通称:党大会)は5年に一回、中央委員会によって召集・開催されます。本大会およびその選挙によって選出される中央委員会が、党の最高指導機構です。

全国代表大会の職権は6つあります。

- 1.中央委員会からの報告の聴取・審査
- 2.中央紀律検査委員会からの報告の聴取・審査
- 3.党の重要問題の討議
- 4.党規約の修正
- 5.中央委員会の選出
- 6.中央紀律検査委員会の選出



CRI公式サイトで第19回党大会特集を配信中!

今年10月18日から24日まで、第19回党大会が開催されました。CRIでは開幕式と、25日に行われた中国共産党中央政治局常務委員の記者会見をライブ配信しました。また、日本語部からは王穎穎記者が現地での取材に臨みました。そのレポートのほか、党大会をより深く知るためのニュースや図解などもCRI日本語ホームページでご覧いただけます。

第19回党大会に関する情報はCRI日本語ホームページ内の第19回党大会特設コーナー(<http://japanese.cri.cn/781/2017/09/07/Zt141s265011.htm>)をご覧ください!

注目の内容～習近平氏の政治報告

▶開幕式では習近平氏による政治報告が行われ、その中で**4つ**のキーワードが注目を集めました。

1.中国は**特色ある社会主義の新時代**に入った

習氏は「豊かさや強さの獲得を実現し、発展途上国の現代化の道筋を広げた」とこれまでの道のりを振り返りながら「わが国の発展の新たな歴史的な位置づけ」としてこの表現を用いました。

2.中国が抱える主要な**社会矛盾は変化**した

習氏は、新時代においては「より良い暮らしを求める人民の需要の増大」に対する「アンバランスで不十分な発展」という状態が主要な社会矛盾になっていると指摘しました。

3.「**新時代の中国の特色ある社会主義**」思想

習氏は「前大会以降、『新時代の中国の特色ある社会主義』思想が形成された。これは中国共産党と人民による中華民族の偉大な復興の行動指針であり、長期的に堅持し、絶えず発展させていくべきものだ」と強調しました。2

4. **社会主義現代化強国建設**のビジョン

習氏は「2020年までに小康社会(いくらかゆとりのある社会)の建設を全面的に実現させるという目標を踏まえて、今世紀半ばにかけて社会主義の現代化強国建設を実現させる」と話しました。

注目の内容～3つの決議

▶ 党大会最終日にあたる10月24日の会議では「**共産党第18期中央委員会報告の決議**」、「**第18期中央紀律検査委員会活動報告の決議**」、「**『中国共産党章程(規約)の修正案』の決議**」がそれぞれ採択されました。

党規約には「**習近平新時代中国特特色社会主義思想**」の文言が明記されています。



注目の内容～中国共産党第19期中央委員会総書記に習近平氏が当選

▶ 第19回党大会の翌25日に開かれた第1回全体会議(一中全会)において、全会一致で習近平氏が中央委員会総書記に再選しました。

注目の内容～中国共産党第19期中央政治局常務委員が選出

▶ 第1回全体会議(一中全会)ではまた、習近平氏、李克強氏、栗戰書氏、汪洋氏、王滬寧氏、趙樂際氏、韓正氏が中央政治局常務委員に選出されました。

本誌では、党大会の開催前後10日間にわたって密着取材に臨んだ王穎穎(おう・えい・えい)記者からの、取材直前のメッセージをご紹介します。記者の「意気込み」を知った上で、CRIが配信する関連のネット記事や映像番組を臨場感たっぷりにお楽しみください。

第19回党大会取材記者・王穎穎の意気込み



私は2007年9月に第17回党大会を取材しました。当時、東京支局から帰任したばかりでした。あれから10年経って、再び党大会を取材する機会に恵まれるとは思っていませんでした。

5年に一回開かれる本大会は国内外から高く注目されています。今大会では中央委員会や中央紀律検査委員会の報告の

聴取・審議、党章修正案の審議・可決がなされ、新しい「中央委員会」と「中央紀律検査委員会」が選出される予定です。つまり、これからの5年間、中国共産党ひいては中国がどのような道を歩んでいくのか、どのような奮闘目標を掲げるのかを定める大切な会議です。その結果を私も楽しみにしています。

10年前の第17回党大会の取材において、とても印象深かったのは党大会の代表たちを取材することでした。開幕の会議が終わった後で、人民大会堂から退場した2000人余りの代表の中に王毅さん(当時は在日大使を退任・帰国したばかり。2013年から外相に就任)を見つけ出し、並んで歩きながらインタビューしました。

有名人だけでなく、地方からの一般代表を取材することも大きな仕事でした。これらの取材を通じて、中国の地方、農村、小さな都市の発展、変化がわかるようになりました。そうした代表たちの人間的な魅力に触れ、感動させられることも多々ありました。だからこそ、今大会の取材を、とても楽しみにしています。

取材記事や映像はCRI日本語ホームページ内の第19回党大会特設コーナーのほか、「CRI日本語」のFacebookページでも配信します。5年に一度の党大会を知る記事や現場の映像を、ぜひご覧ください。



北京暮らし～北京の町巡り「万柳」～

■劉叡琳

シリーズコラム「北京暮らし」では、観光ガイドブックには載らない市民の生活エリアをご紹介します。

北京市の面積は1万6800平方キロで、日本の四国4県とほぼ同じ、東京都のおよそ8倍にあたります。16の区と2つの県からなり、人口は2016年末の時点で2172万9千人に達したということです。

広い北京で、住みやすい生活エリアや住宅団地はどこなところでしょう。今回は「万柳」という地区をご紹介します。

「万柳」は、北京市北西部の海淀区にあり、世界遺産・頤和園の南東に隣接しています。この辺りは昔、「万泉荘」と「柳浪荘」に分かれていましたが、いつしか「万柳」と呼ばれるようになりました。

このエリアには、高級な別荘やマンションが沢山集まり、日本の東京でいう世田谷区のような、文化人やセレブ御用達の高級住宅地とも言えます。ゴルフ練習場やテニスセンターなどのレジャー施設が整うだけでなく、世界遺産の頤和園や円明園があり、また西に行けば香山や西山森林公園も近く、自然環境に恵まれています。

また、周辺には北京大学や中国人民大学およびその附属小・中学校など、小学校から大学まで北京の一流の学校が勢ぞろいで、これら名門校へ我が子を入学させたい親たちにとって憧れの住宅エリアであるため、物件は非常に高くなっています。この辺りの代表的な住宅団地には、「世紀城」や「万柳公寓」などがあります。

さらに、北京西部最大規模のショッピングモール「世紀金源モール」があるのも、この地域です。駐車無料で、アウトレット商品から、高級ブランドショップに飲食店、ゲームセンター、スポーツジム、映画館、学習塾など、すべてが揃うこのモールは北京市民にとって、家族連れで訪れるのに最適の人気スポットと言えます。

「万柳」に住むデメリットがあるとすれば、公共交通手段がそれほど多くないことです。地下鉄10号線の「長春橋駅」と「巴溝駅」の真ん中に位置しており、どちらの地下鉄駅からも少し歩かなければなりません。自家用車があれば問題はありませんが、その辺りもまさにセレブ御用達の住宅地らしいと言えるでしょう。



■劉叡琳

(りゅう・えいりん)

2002年入局。ニュースキャスターのほか、毎週月曜日の番組を担当。

「ライフマガジン」やネット更新中の「いきいき中国」で、最新のライフスタイルから、昔ながらの懐かしい暮らしまで、「生」の中国をお届けしています。

雲南省出身。北京第二外国語大学大学院日本語専攻修了。

CRI日本語放送・北京放送OB・OGは今

かつて「北京放送」として親しまれていた時代もあるCRIの日本語放送。今回から始まるこのコーナーでは過去に活躍していたOB・OGの近況をご紹介します。第一回に登場するのは1989年4月～1991年3月までCRIに勤務していた壺岐一郎さん(86歳)です。

【プロフィール】

壺岐一郎(いき・いちろう)

1931年東京都生まれ。東北大学法学部卒業後、九州朝日放送で30年勤務。その後、CRI日本語放送を経て東海大学、沖縄大学で教鞭をとる。日本記者クラブ会員。日本徐福協会顧問。

主な著書に『北京放送365日』河合出版(1991)、『徐福集団渡来と古代日本』(三一書房)(1996)、『映像文化論・沖繩発』(2000)など多数。主編に『ゼロからの古代史事典』(ミネルヴァ書房)(2012)など。

侵略反省への贖罪意志、等身大の行動で＝小学校に義援金

壺岐さんは元沖縄大学教授で、古代史研究者、天津社会科学院特別招聘研究員。CRI時代を含めこれまで50回にわたり中国を訪問。この10月17日、計100万円を天津市武清区の西劉庄小学校に寄付しました。御年86歳で年金生活を送る中であって、「禁煙55年、避酒5年」により生活費を切り詰めて貯めたお金の一部だと言います。



(左) 寄付金を受け取る西劉庄小学校の呉学強校長 (右) 寄贈式の様子

これに先立ち、盧溝橋事変から80年に当たる2017年7月7日、壺岐さんは当日付けの朝日新聞「オピニオン&フォーラム」に「戦争責任 私の贖罪の意伝えたい」と題する文を寄稿し、次のように綴りました。

「80年前の今日、『皇軍』が北京郊外の盧溝橋で戦闘を始めたことに、まだ子どもの私は歓喜した…『過ちては改むるに憚ること勿れ』という孔子の言葉を思う…人生の最晩年に入り、国の歴史認識とは別に、個人の戦争責任を考える。中国や朝鮮半島との歴史を振り返って贖罪の意思を示すため、身の丈に合った寄付をすることに決めた」

日本の軍国主義が中国をはじめ、近隣諸国に被害をもたらした歴史に対し、個人のできる等身大の償いを考えたいという素直な気持ちを明かした上で、読者に意見を求めています。

今回の寄付先である西劉庄小学校は天津市武清区東馬圈鎮西劉家庄村にあります。同村は、天津社会科学院が中国共産党中央および習近平総書記による「精密かつ正確な貧困扶助と貧困脱却(精準扶貧、精準脱貧)」の要求に基づいて、天津市の手配により2017年9月に壺岐さんが一対一の支援関係を結んだ相手先です。寄付式で壺岐さんは「中日の友好関係は代々受け継がれる。これからは特に若い世代の間で理解と友情を深めてほしい」と希望を寄せました。(文責: 王小燕 写真提供: 天津社会科学院)

◆OB・OGの声(寄稿文)

天津郊外の救貧「扶貧」奉仕の記

東京 壺岐一郎(86)



秋晴れの日、天津市武清区の西劉庄村小学校に生徒200名、社会科学院史瑞傑院長・張景詩副院長ほか研究員、および武清区党幹部以下、町村幹部等100名と私が参集した。

*

事の発端は、「九・一八」侵略の直前に生まれた私が80代後半に入ることについて、日本政府とは別に侵略反省の贖罪意志を老朋友・陳榮芳兄(1929年台湾生まれ、戦中、日本へ。戦後、旧制一高理科から東大理学部卒、北京放送日本語部勤務、中国翻訳家協会理事)に相談した事だった。私は日本の朝日新聞7月7日「声」欄に盧溝橋事件80周年に贖罪基金を差し出す意志を記した。新聞は550万部発行され、反応は少なくなかった。見知らぬ人からも1万円を送られている。天津の陳兄が私の所属する社会科学院東北亜研究所幹部に相談した結果、この日の寄付・寄贈式は花開いたといえる。

*

式典はまず生徒代表の弾むような歓迎挨拶に始まり、社会科学院側の挨拶、地区党・郡・村の関係者の謝辞が続いた。私は思いがけない光景に感激し、挨拶で「体を鍛え、勉強を」そして86歳まで元気に生きる土台をつくるようにと「小朋友」たちに呼び掛けた。学校の近くの道路には村を守るように1本の大樹が聳っていた。その姿は子どもらが育つ未来を示すかのようだった。

中国の苗字を知る

百家姓物語

■張怡康

書籍『百家姓』は、子供らに漢字を教えるために馴染みのある姓を504集めた学習書の1つで、北宋(960~1127年)の初めころに成立したとされます(諸説あり)。「趙錢孫李周呉鄭王…」とリズムカルにはじまり、中国の代表的な姓が記されています。

このコーナーでは、『百家姓』から取り上げた中国の苗字を紹介します。



金(jīn)

使用人口:380万 人口ランキング:64位

きれいな銀杏の葉で町が金色に包まれる中国の美しい秋は、「金秋」とも呼ばれます。今回は「金」という苗字をご紹介しますでしょう。

金という苗字の由来としてよく知られているのは、古代中国の脅威であった北方の遊牧民族・匈奴から来たというものです。匈奴の王であった休屠王は一時期漢をおびやかしましたが、やがて漢の武帝に制圧されました。そして、逃げられなかった匈奴の人々は漢民族に溶け込みました。

その中でもっとも有名なのが、休屠王の息子である馬使いの金日磾です。当初は苗字のない日磾という名前でしたが、立派に馬の世話をしたことで漢の武帝の目に留まります。その際、日磾の部落が金属製の像(主に銅像)を作ることに長けていたことから「金」という苗字を授かりました。彼の子孫も代々、金さんになったというわけです。

もう一つの由来は、なんとユダヤ人と関係があります。記録によりますと、宋の時

代に一部のユダヤ人が中国でビジネスを展開し、そのまま定住して、中国の苗字を使うようになったのだそうです。使われた苗字は合わせて17ありまして(諸説あり)、その中の1つが「金」です。これはユダヤ人の姓“Gilbert”を中国風にしたものだそうです。ほかにも、“Shimon”が「石」、「Cohen」が「高」、「Joshua」が「張」、「Jonathan」が「趙」という姓にそれぞれなったとされています。

「金」姓の有名人①——金星



金星(1967-)は毒舌で有名なトークショーのMCです。社会のできごと、特に不平不満に関する意見を、正義感を持ってはっきりと発言することから多くの視聴者の支持を得ています。実は「彼女」はニューハーフで、元々はダンサーです。まだ理解が得られ難かった時代に、女性としての心を解放させるための性転換手術を受け、ダンスを続けてきたという彼女の人生は、多くの人に勇気を与えています。

「金」姓の有名人②——金庸



金庸(1924-)は主に武俠小説を書く有名な小説家です。金庸というのはペンネームで、本名は査良鏞(ざ・りょうよう)と言います。記者として働いていましたが、やがて映画の脚本や小説を執筆するようになり、1955年の処女作『書劍恩仇録』の連載開始から、1972年に最後の作品『鹿鼎記』を断筆するまでの活動期間で15の長編小説を手掛けました。これらを原作にしたドラマや映画は40作品に及び、

数々の名キャラクターを生み出しました。また、ほぼ全ての作品を日本語でも出版しており、日本で講演会を開いたこともあります。



■張怡康
(ちょう・いーかん)

2014年入局。初めて日本語に触れたのは1997年。日本語部では主にラジオ番組、SNSプラットフォームの管理、映像番組(ネット)を担当。中国語講座番組「日本で実践!中国語」では、「日本で中国人と出会った時に使える中国語」をお届けしています。

遼寧省出身。北京第二外国語学院日本語同時通訳専攻卒、ニューヨーク大学大学院修了。

日本で実践!中国語

かけはし出張版 ゴミの捨て方を教える会話

この講座番組では、日本で中国人と出会ったとき、どんな風に中国語で会話すれば良いかを一緒に勉強しています。

中国では10月が新年度のスタートですので、多くの中国人が日本に留学しに行きます。隣国ということで衣食住の習慣に似た部分が多く、慣れるのに苦労はしないようですが、ゴミ捨ての方法は全く違って、戸惑う留学生がたくさんいます。そんな中国人に、正しいゴミの捨て方を教えましょう。

「日本で実践!中国語」の第31課の内容を抜粋してお届けします。

ちょういーかん
張 怡康



「日本のゴミ捨ても、慣れてしまえば簡単でした!」

うめだ けん
梅田 謙



「北京暮らし3年目目前。物も思い出も増える一方です」

会話

Qǐng wèn lājī zěnmě chǔlǐ?

A: 请问垃圾怎么处理?

B: Zhǐyào bǎ kěrán lājī hé bùkěrán lājī fēnkāi jiù kěyǐ le.

Měi zhōuyī hé zhōusì kěyǐ rēng kěrán lājī.

Rúguǒ bèirù bùxiǎng yào le, zěnměbàn?

B: Měiqēyuè yǒu yītiān shì dàjiàn lājī huíshōurì.

Rìyǔ xiěchéng cūdà lājī.

Xūyào qù chāoshì huòzhě biànlidiàn mǎi cūdà lājī tiēzhǐ.

Lājī de tǐjī yuè xiǎo yuè hǎo.

A: Zhīdao le.

訳文

A: すみません、ゴミはどのように捨てればよいですか。

B: 燃えるゴミと燃えないゴミを分別すればよいです。

燃えるゴミは毎週月曜日と木曜日に捨てられます。

A: もし布団がいらぬなら、どうすればよいですか。

B: 月に一回、大きなゴミの回収日があります。

日本語では「粗大ゴミ」と書きます。

スーパー、或いはコンビニで「粗大ゴミ」シールを買う必要があります。

ゴミはできるだけ小さくしてください。

A: わかりました。

単語

| | |
|-------------|------------|
| lājī | ゴミ |
| chǔlǐ | 処理、片付ける |
| kěrán | 燃やせる |
| fēnkāi | 分ける、分別する |
| rēng | 捨てる |
| bèirù | ふとん |
| zěnměbàn | どうする、どうしよう |
| dàjiàn lājī | 粗大ゴミ |
| huíshōu | 回収、リサイクル |
| chāoshì | スーパー |
| tǐjī | 体積 |
| biànlidiàn | コンビニ |
| tiēzhǐ | シール |
| zhīdao | わかる、知る |

「日本で実践!中国語」は以下の方法でお聴きいただけます。

☆Podcast iTunesや対応アプリで「中国語」「日本で実践」を検索。

☆CRIラジオ 毎週火曜日と金曜日に好評放送中!

☆Webサイト CRI公式サイトの「中国語教室」コーナーへお進みください。

URLはこちら→<http://japanese.cri.cn/15home/hanyu.htm>



あなたの知らない パンダあれこれ 中日の「パンダ外交」を振り返る

■周莉

所変われば好みも変わる。でもパンダを可愛いと思う気持ちは世界共通でしょう。

知られざるパンダの魅力をご紹介する本コーナー、今回は中日国交正常化45周年に合わせて、1972年に始まった中日の「パンダ外交」を取り上げます。

🐼 香香誕生、パンダフィーバー再び!

上野動物園で今年6月、赤ちゃんパンダの「香香(シャンシャン)」が生まれました。これによる入園者やグッズ売り上げの増加などで、東京都内だけでも約267億円の経済効果が見込まれ、名前の公募には国内外から過去最多の32万2581件が寄せられたということです。こうして、45年前の1972年に日本で爆発的に流行した言葉「パンダフィーバー」が現代によみがえりました。ところで、赤ちゃんパンダなら和歌山県のアドベンチャーワールドでも2年おきに誕生しています。それなのに、なぜ東京の上野動物園で生まれた時にばかりパンダフィーバーが巻き起こるのでしょうか?それには、上野のパンダが背負う重大な使命が関係しています。



🐼 最初のパンダフィーバー

中国が初めて日本にパンダを贈ったのは、中日国交正常化が果たされた1972年のこと。同年10月28日、四川省からやってきた「康康(カンカン、雄、当時2歳)」と「蘭蘭(ランラン、雌、当時4歳)」が上野動物園に到着しました。2頭が公開されると、連日長蛇の列ができ、空前のパンダブームとなりました。友好の使者として来日したパンダは日本国民に温かく迎えられ、その愛くるしい姿と仕草が大勢の人々を魅了しました。3カ月間で、パンダ関連グッズの売り上げは約100億円にもなりました。



🐼 歴代のパンダ大使たち

パンダフィーバーには弊害もありました。あまりの観覧客の多さに疲弊してしまった「蘭蘭」が、公開開始3日目に倒れてしまったのです。1979年、「蘭蘭」は妊娠中毒による腎不全で、胎児と共に死んでしまいます。訃報を受けて、たくさんの方が花を手向け、号泣する様子が中国の新聞で伝えられると、中国政府は日本にパンダの贈呈を続けることを決めました。1980年、残された「康康」のパートナーとして雌の「歓歓(ホアンホアン)」が贈られました。しかし、「康康」はまるで妻の「蘭蘭」の後を追うかのように、まもなく死んでしまいます。その2年後の1982年、中日国交正常化10周年を記念して、2代目の雄パンダ「飛飛(フェイフェイ)」が贈られました。

1985年、「飛飛」と「歓歓」の間に日本初の赤ちゃんパンダ「初初(チュチュ、雄)」が人工授精により誕生します。「初初」は生後2日でお母さんの下敷きになって死んでしまいましたが、1986年には「童童(トントン、雌)」が誕生しました。さらに、1988年には3頭目の赤ちゃん「悠悠(ユウユウ、雄)」を出産。4年後の1992年に、中日国交正常化20周年を記念して、「悠悠」と北京動物園の「陵陵(リンリン、雄)」との交換が決定しました。そして「陵陵」は「童童」の相手として、1992年11月に上野動物園に到着しました。

上野動物園は「童童」と「陵陵」の子供の誕生を待ち望みましたが、パンダの繁殖はきわめて難しいため、実現できず、日

本で生育された初のジャイアントパンダ「童童」は子をもうけることなく2000年に死亡、その後「陵陵」は2008年まで生きました。

🐼 パンダ外交はつづく

ところで1981年、中国がワシントン条約に加盟したことを契機に、無償のパンダ贈呈は研究を目的とした有償貸与に変わりました。いま上野動物園で暮らす「力力(リーリー、雄)」と「真真(シンシン、雌)」、その間に今回生まれた「香香」の3頭はいずれも中国が貸与していることとなります。これは神戸の王子動物園にいるパンダや、和歌山のアドベンチャーワールドにいるパンダファミリーも同様です。



シンシンとその赤ちゃん

このように「パンダ外交」は形態を変えながらも、45年前の「康康」と「蘭蘭」の来日以来、断続的に続けられ、パンダ大使たちは両国間の理解増進に大きく貢献してきました。「一頭のパンダは十人の外交官に勝る」という言葉があることから、パンダには国と国を結びつける力があると言えるでしょう。パンダを見た時には中国のことも思い出して、中国に対する関心を深めてもらえる嬉しいです。パンダ大使たちもきっと喜ぶことでしょう。



■周莉

(しゅう・り)

1998年入局。

ニュースデスクのほか、毎週木曜日の番組を担当。長年日本へ発信する第一線で積み上げたノウハウを生かして、聞き甲斐、読み甲斐のあるイキイキとした情報をお届けします!

56の民族、56輪の花 チワン族

■孟群



チワン族(壮族)は中国一人口の多い少数民族で、2010年の国勢調査では1692万6381人いることが分かっています。そんな彼らは歌うことを好む民族としても知られます。

チワン族の間で伝説の歌姫として伝えられているのが「劉三姐」。彼女は中国南方の少数民族の即興的形式の民謡「山歌」の歌い手で、かつて実在した人物をもとに作り上げられた人物とされています。

劉三姐は劉三妹(サンメイ)、劉三娘(サンニャン)とも呼ばれますが、いずれも劉家の三女という意味。モデルになったのは唐の時代の女性だと言われますが、広西チワン族自治区羅城県の歴史を記した書物には、劉三姐が618年に羅城県の藍靛村に生まれたとの記録もあります。また、同県の多吉寺には「歌の仙人」とも称された劉三姐の塑像が祭られています。



広西チワン族自治区では、1958年の全国的な新民歌運動に続いて、歌劇『劉三姐』を制作・上演するキャンペーンが展開されました。これらを背景に1960年代に入っただけ、長春電影制片廠によって制作された映画『劉三姐』が公開されます。クランクインにあたり、同作の撮影班は数多くの民族の歌曲を収集したほか、劉三姐の

足跡を追い、彼女にまつわる物語をまとめています。

劉三姐は、「対歌」の中で現れた優れた歌手です。対歌とは南方の少数民族地区で昔から盛んに行われている問答形式の歌で、男女のグループに分かれ、即興で作った歌を交わし合う、言わば歌合戦です。劉三姐をめぐる伝説の多くは、この対歌のくだりを柱としており、彼女の機知に富んだ歌いぶりが様々に伝えられています。

チワン族の対歌の特徴は、質問が歌われた後で、すぐにその答えを歌わなければならないという点にあり、瞬発力と発想力が求められます。劉三姐は、どんな質問にもすぐに歌で答えられる頭の回転の速さを持ち、歌声は美しく、容姿端麗であったと言われています。

先述の映画『劉三姐』は一時、中国で大ヒットしたため、当時の人々であれば誰でも劇中のチワン族の歌を口ずさむことができます。この映画は、歌の部分すべて山歌の形式のユニークな民族歌劇として注目されました。作中で劉三姐は、封建地主や、それに仕える文人に、風刺に満ちた痛烈な山歌を浴びせします。その賢く、美しく、勇敢な姿が多くの人に愛されてきました。そして、劉三姐が歌ったと言われる山歌は、2006年に国の無形文化財として登録されました。これらの曲は、チワン族だけでなく、多くの民族からも好まれて歌われています。

さて、チワン族の「歌好き」な特徴は、伝統的な祝祭日「三月三」にも現れています。三月三は旧暦の3月3日、つまり日本では桃の節句にあたる日。この日は、中華

民族の先祖とされる黄帝の誕生日だという伝説があり、これを記念する節句、「上巳節」として長い歴史を持ちます。チワン族ではこの三月三日が、伝統的な歌の祭りの日なのです。

三月三は毎年、大体3月末か、4月初旬。広西チワン族自治区では2日間の連休になるなど、日常生活にも密接に影響します。そしてこの祭りは、若い男女が対歌の形式で集団お見合いをする場ともなっています。この時期は天気が次第に温かくなり、花が咲く、まさに恋愛の季節と言えるでしょう。

2014年、チワン族の三月三はユネスコ世界遺産に登録されました。この祭りをもっと多くの人に知ってもらおうと、広西チワン族自治区では、政府主催の三月三観光イベントが数年前から行われています。このチワン族の民族的なお祭りが、今や自治区全体をアピールする大規模なイベントになっています。



■孟群
(もう・ぐん)

1991年入局。ニュースキャスターのほか星和明アナとハイウェイ北京・木曜日2時間目の番組を担当。

「56の民族、56輪の花」のコーナーで週一回、中国の少数民族の話をお届けします。民族名の由来や歴史、その衣食住など、さまざまな興味深い話題を、楽しくお話しします。

湖北省生まれ、出身校は北京外国語大学、日本語専攻。

2017年中日民間歌唱大賽



中日国交正常化45周年記念特別企画～

2017中日歌唱コンテスト

中国国際放送局(CRI)、中国国際放送ネットワーク(CIBN)と北京外国語大学が中日国交正常化45周年を記念するために共同主催した企画「2017 中日歌唱コンテスト」の決勝戦が、北京外国語大学で開かれました。両国のアマチュア歌手10組が紅白に分かれ、相手国の歌を歌うことで今後の中日関係発展を願いました。約千人の観客が会場で観戦したほか、Stager Live、映客直播、哔哩哔哩(bilibili)などのライブ配信サイトでの生中継を通して120万人以上がステージの様態を視聴しました。

対決はヤングパワー、ラブ・バラード、演歌VSハワイアン、懐メロ、ヒットソングの5ラウンドにわたって展開さ

れ、審査の結果、トップバッターで登場し、尾崎豊の歌にチャレンジした上海師範大学日本語学科の李昱伯さんが人気賞(観客と視聴者の投票で決定)、中島美嘉の「雪の華」に挑んだ北京外国語大学日本語学科の辛清揚さんが最優秀歌唱賞、周杰倫(ジェイ・チョウ)の「ザ・ロングスト・ムービー」を阿吽の呼吸で歌った北京在住日本人ユニット「田中&山崎」がベストパフォーマンス賞、そして総合優勝であるグループ賞は紅組が、それぞれ受賞しました。

審査員陣には李双江さん、李玲玉さん、朱樨さんら中国国内の有名歌手のほか、中国でも大人気の日本人歌手、谷村新司さんが駆けつけまし

た。審査員たちのユーモアに富んだ、軽妙な講評はたびたび、会場を笑いの渦に包み込みました。

司会進行はCRI日本語アナウンサーの張怡康と北京外国語大学日本語学部2年の程凡華が中日2カ国語で担当。本誌では司会を務めた2人からの寄稿をお届けします。イベント当日の様子をお伝えする写真と共に楽しんでください。

「やっぱりね、そうだろね」

■紅組キャプテン 張怡康 (CRI日本語アナウンサー)



例年は12月に放送局内で「紅白歌比べ」として実施して来たこのイベントですが、今年は実施時期も会場も一新。中日国交正常化45周年を契機に、規模は約10倍に!

司会を任せられ、紅組キャプテンとしてステージに立てることはもちろん嬉しかったのですが、その他にも、地方からの多数の応募、予選の盛り上がり、谷村新司さんの参加、チケットが人気で、わずか一週間で無くなったこと等々、追い風に恵まれ、燃える気持ちで本番を迎えられました。

当日は、白組キャプテンの程凡華さんが

笑顔満点で隣に居てくれたことや、お客さんの温かいリアクションによって緊張がほぐれ、私自身もコンテストを楽しめました。何より、歌を愛する心と中日友好を祝福する気持ちを、歌を通して表現した両国の選手たちの姿に感動しました。

結果として、紅組は最優秀歌唱賞とグループ賞を獲得!キャプテンとして、とても嬉しかったのですが、それと同時に、白組への感謝の気持ちも湧いてきました。

一つ目に、演歌への興味が深まったこと。拙文のタイトルは、王穎選手が歌った「大井追っかけ音次郎」のワンフレーズです。こんなにも可愛い演歌があるなんて!と衝撃を受け、コンテスト後にもついでこの歌詞を口ずさむようになりました。同じ感想を話すお客さんは、ほかに何人もいました。今回の目的の一つ「中日文化の交流を果たす」という面で、とても有意義なパフォーマンスでした。

もう一つの感謝は白組キャプテンの程さんに対して。今回は、ハイレベルな戦いに最終審査が難航しました。審査を待つ

間、場をもたせるための段取りを使い切ってしまった私は、程さんについて「一曲歌ったら?」と言ってしまいました。「しまった、口が滑った」と後悔したのですが、程さんとはいうと、急な振りに応じて明るく歌い出し、うまく時間を繋いでくれたのでした。

「やっぱりね、そうだろね」に続くのは、「しんどい」「未練」というネガティブな言葉です。けど、その歌い口は軽く、どこか楽しげです。国際交流の道には苦難もあるでしょう、しかし、相手国の言葉でこんなにも感動的な歌を届ける人々が両国にいます。学生でありながら司会進行を立派に果たした程さんをはじめ、中日友好の道を歩む素晴らしい若者たちも大勢います。心強く思いながら、「やっぱりね、そうだろね」と明るく口ずさみながら、私はこれからも両国のかけはしとなっていこう! そんなエネルギーを貰えるイベントになりました。

「感謝を持ち 未来に向けて」

■白組キャプテン 程凡華 (北京外国語大学日本語学科2年生)

今年の中日歌唱コンテストは中日国交正常化45周年を記念するための特別企画です。CRIとCIBN、北京外大が連携してお届けしました。当日は、北京外大の千人会場に空席は無く、さらにライブ配信は数百万人の観衆が視聴したということです。これを聞いて、本当に感心しました。

大学の先生から「中日歌唱コンテストの司会に興味があるか」と聞かれた時は、とても驚きました。貴重な機会ですが、正直なところあまり自信がありませんでした。しかし、CRIの皆さんと会って、すぐに安心することができました。このような素晴らしいチームであれば、必ずや素晴らしいコンテストが開催できるだろうと確信しました。この場を借りて、CRIと北京外大の皆さんに改めて感謝を申し上げます。

印象深いのは、一人ひとりの選手たちの様子です。「佐藤舞子と北京Alohawaiians」の皆さんはリハーサルで、より良い入退

場の仕方を真剣に試行錯誤していました。安鴻春さんは自分の歌に満足することなく、持ち歌の「酒よ」を自分の生活に持ち込んで、1日に何十回も練習したそうです。旦那さんと一緒にはるばる西安からやって来た庄元玲さんは、コンテストのために日本語を一生懸命勉強してきました。辛清揚さんは綺麗な声を出すため、当日の朝は水しか飲みません。平林さんと鎌田さんの歌った「Endless Love」は、その豊かな感情表現で舞台裏にいた人々までも感動させました。全ての選手たちが、このような取り組みをしていました。皆さんの真剣さと努力を目の当たりにして、心から敬服しました。

白組キャプテンとして、総合優勝できなかったことはちょっと残念ですが、両組の選手のパフォーマンスを見て、本当に楽しむことができました。「中国人は日本語の歌を、日本人は中国語の歌を歌



う」というステージを通して、中日の文化交流、文化の交換が垣間見えました。今年是中国国交正常化45周年です、皆さんと一緒に、新しいスタートラインに立って、両国の美しい未来を作っていきたいです。



辛清揚さん(学生)



李昱伯さん(学生)



田中&山崎(共に会社員)



王穎さん(会社員)



審査員のユーモアに富んだ講評も会場を盛り上げた

日本から駆けつけた谷村新司さんは、改革開放初期から中国との音楽交流に尽力してきた歌手でもあります。今回は審査員のほか、1980年代始めから中国全土に広まった代表曲「昴」を熱唱し、鳴り止まぬ拍手の中でコンテストのフィナーレを飾りました。

なお、9月19日放送のラジオ番組「CRIインタビュー」では谷村新司さんのインタビューを紹介しています。CRI日本語サイト(<http://japanese.cri.cn/2050/2017/09/19/162s265357.htm>)でご覧いただくか、Podcastで「CRIインタビュー」とご検索の上、お聞きください。



佐藤舞子と北京Alohawaiians



勝谷莉奈さん(学生)



劉香凝さん(学生)



庄元玲さん(会社員)



平林孝之さん(会社員) 鎌田真理恵さん(学生)



安鴻春さん(会社員)

話 はなし HANASHI 断

■文 李順然 ■写真 薛移

天高气爽

天高く地に紫禁城気爽やか

「天高く気爽やか」という成語を見て頭に浮かぶのは、日本画壇の巨匠・梅原竜三郎(1888～1986年)が一九四〇年の秋の北京で描いた『紫禁城』というタイトルの油絵です。紫禁城は北京の中心部にある明(1368～1664年)、清(1636～1911年)王朝の宮殿。天には一杯の青い空と白い雲、地には秋の陽を浴びて金色に輝く紫禁城の屋根と森の都の緑、遠くには西山の山脈(やまなみ)……。この風景、この絵は五回も北京の秋を訪れたという梅原自身もたいへん気に入ったようで、「樹海の中の金色の叢と赤い壁の楼閣は世界無類」「北京の空は色鮮やかで、実にしばしば美しい雲がたっているところだ。何だか音楽を聞いているような空だった」「北京での生活はこれまでの人生の中でも一番張(はり)のある時であった」と書いています。梅原竜三郎は『紫禁城』のほか、『北京秋天』『天壇』といった北京を描いた傑作を残しています。

もともと、私の手元にある梅原竜三郎の画集から『紫禁城』をコピーし、このページに載せてみようと思ったのですが、著作権違反になると言われ、残念ながらこの案は取り下げざるを得ませんでした。最寄りの図書館にきっと梅原の上述の絵を載せたものがあると思います。ぜひ足を運んで北京の秋の一景を楽しんでみてください。私

の一番好きな北京の秋の風景なのです。

青い空白い雲たち柿赤し



青い空白い雲たち赤い柿—
隣のマンションの空地の柿の木(本文参照)

私の住んでいるマンションから道一つ隔てたところに、ごくごく普通の十六階建てのマンションが建っています。一九八〇年代ごろに建てられたもので、主に都市中心部の区画整理で引っ越してきた人たちが住んでいるようです。このマンションの空地に、二十メートル四方に枝を伸ばす見事な柿の木があります。日当たりがよく、春にはつやつやした柔らかい葉が明るく輝き、夏には涼しいゆったりした木陰を作ってくれています。そして秋には枝もたわわに赤い柿を付け、冬には葉も実も落として山水画のようなシルエットで目を楽しませられます。

こうした風景を見るにつけ、私の頭にはある一つの風景が浮かぶのです。わたしが

この近くに住むようになってかれこれ六十年、そのころのこの一帯にはまだ畑や農家がいづらか残っていました。そこで柿の木を見かけた記憶もあります。ひよっとすると、隣のマンションの空地の柿の木、あのころ見た柿の木かもしれない。誰かの手でここに移されたのかも知れない……。私はいつの間にか、知らず知らずにそれが歴史の事実であったかのように思うようになってしまいました。

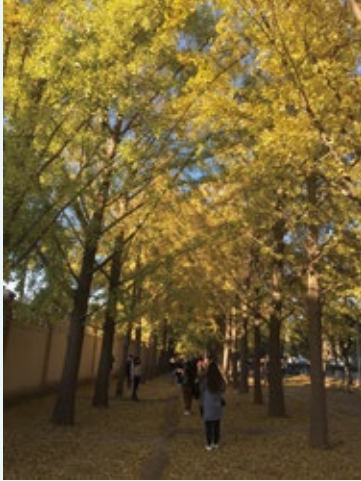
だいぶ前のことです。ひよんなご縁でこのマンションに住むお年寄り知り合いになり、柿の木のルーツについての私の考えを話すと、このお年寄りは大きく頷き「わたしもそう思う。私が引っ越してきたころには、まわりに空地があり木が残っていた。このマンションには老木が二本ある。一本はこの柿の木、もう一本は北側の入口の前の香椿(チャンチン)だ。あそこは北側で日当たりが悪く、育ちが良くなく枝ぶりも悪いけど……。これも同じルーツの持ち主だと思う」と話してくれました。

「香椿」と聞いて思わずひざを打ちました。香椿は北京の農村部でよくみかける落葉高木なのです。日本のわらび、ぜんまいのように、北京っ子はこの木の芽を「香椿頭」と呼んで「味噌あえ」などにして春の旬の味を楽しんでおり、北京っ子にとってお馴染みの木なのです。

お年寄りの話は、この柿と香椿がこの土地に昔からあるものであることをさらに強く確信させてくれました。人には人なりの貴重な人生があり神聖な寿命がある、樹にも樹なりの貴重な樹生があり神聖な寿命があるのだ—そんなことを思いながら、と

きどきベランダから柿と香椿の木を眺めています。

紅(こう)か黄(き)か もみじ狩り前の大論議



釣魚台国賓館前の銀杏の並木(本文参照)

わたしが働いていたころの中国国際放送日本語部では、秋になると秋遊(秋のピクニック)、もみじ狩りが話題になりました。遠くに行くか近くにするか、日帰りか一泊か、お弁当を持っていくか食堂にするか、紅葉か黄葉か、その日の留守番はどうするか……、労働組合の陳さんたちの調整で出発の一週間ぐらい前にスケジュールが発表されていました。

紅葉か黄葉か、北京の紅葉狩りの代名詞として知られているのは西郊外の香山(海拔557メートル)、十月中旬には二万本の櫨(はぜ)が山肌を真赤に染め、唐の詩人・杜牧(803~852年)が詠んだ「霜葉は二月の花より紅なり」という絶景が姿を見せます。この櫨は清王朝の風流皇帝・乾

隆帝(711~799年)が植えたものだと伝えられています。

一方、黄葉の方はというと、ここ数年急にランクを上げてきたのが北京の西部、一九七二年秋に訪申し中日国交正常化を実現させた一人である日本の田中角栄首相も泊まったことのある、釣魚台国賓館前の通りの銀杏並木です。

はじめのうちは、この近くの職場で働く人たちが昼の休み時間に三三五五連れ立ってここに足を運び、きらきら光る銀杏の葉の下で秋の陽を楽しんでいました。それがクチコミやネットで伝わり、朝は散歩のお年寄りやランニングをする人たちが集い、夕方には退勤した若者の待ち合わせやデートの場となり、また、一日中カメラ片手に秋の「季語」を捉える写真愛好者の姿も見られる名所となっています。

銀杏の葉一春はその若葉で、夏はその青葉で、秋はその落葉で、気品のある形と色を見せてくれます。一昔前のある風景を思い出しました。病床にあった大先輩の趙安博さん(中日友好協会初代秘書長)をお見舞いに行ったときのことです。お宅の近くの銀杏の並木できらきら光る落ち葉を見つけました。五、六枚拾って趙安博さんに差し上げると、ソファに並んで座った趙さんご夫婦は目を細めて「很漂亮、很漂亮」(とても綺麗)と一枚一枚手に取って喜んでくれました。私の頭には、ふと若き日に日本へ留学していたころの趙安博さんの姿

が浮かびました。彼は東京の一高(現在の東大教養学部)で学んでいました。きっと、東大の正門から安田講堂に続く銀杏並木も見たことでしょう。趙さんご夫婦の笑顔を見ていたら、日本俳壇の巨匠・山口青邨の名句、東大で学び、東大の教授だった青邨の代表作とされている一句が頭を掠めました。青邨は法学部ではなく工学部の学生だったのですが……。

銀杏散るまっただ中に法科あり



■李順然(り・じゅんぜん)

中国国際放送局日本語部に50年続したOB。趣味は本、雑誌、新聞などの「雑覧」。



■薛移(せつ・い)

日本語部でリスナーとの交流・連絡を担当。この道一筋三十数年。趣味は旅行、北京散歩。



▲梅原氏が見たであろう風景です。ぜひ絵と見比べてみてください。(提供:北京貴賓樓飯店)

キーワードチャイナ ~新語で知る中国事情~

■謝東

kuàijié zhīfù 快捷支付

クイックペイメント

「快捷」は素早い、敏捷である、スピーディーであるという意味。IT関連用語にもキーボード=「鍵」の字を後ろにつけて「快捷鍵」とすることで「ショートカットキー」を意味する用法がある。

「支付」は支払う、支払いという意味。「快捷支付」には今のところ定訳はないが、直訳すると快速支払、スピード支払いとなるので、「スピード決済」、「クイックペイメント」などの訳が適当だろう。

現状「快捷支付」のほとんどが携帯電話によって行われているため、モバイルペイメントと訳すこともあるが、もう一つ「移动支付(yídòng zhīfù)」という言葉があり、モバイルペイメント、スマート決済という訳語にはこちらの単語の方が感覚的に近くなる。

中国では、お店の入口に「快捷支付」と書かれたシールが貼られていたり、レジにQRコードの印刷されたプレートが置かれていたりしているほか、このサービスの専用端末が設置されている。こうしたお店では、利用者が対応アプリのインストールされたスマホを持っていれば、現金に触れずに「快捷支付」ができるのだ。

yùndòng shèjiāo 运动社交

スポーツ・ソーシャル

「运动社交」はスポーツを切り口にしたソーシャルモデル。ソーシャルメディアの出現と人々の健康意識の高まりによって生まれたもので、スポーツなどの活動を、インターネットを介して仲間と楽しむものだ。

たとえば、ランニングは中国でも今、最もポピュラーなスポーツになっており、ランナーのためのアプリがたくさん出ている。これらのアプリは使用者個人の健康状態や走った距離、時間、消費したカロリーなどの基本情報を記録するほか、GPS機能を利用したトレーニングプランの作成もでき

る。さらに「微信(WeChat)」などのSNSと連携することで、自分の運動状況を友達とシェアすることもできる。友達と成績を見せ合うことで互いの励ましになるわけだ。こうして、同じ趣味を持っている人が自然に集まり、たくさんのグループが生まれている。

ランニングといえば一人で走る、孤独な運動のイメージがあったが、このようなアプリの登場によって、みんなで走る楽しみを共有できるようになった。ランニングだけでなく、他にもさまざまなスポーツ関連のアプリがあって、それらを使った交流を「运动社交」と言う。

fèichái 废柴

役に立たない人

「废柴」は広東語由来の言葉。そもそも相手に対する軽蔑を表し、動詞または形容詞として使われる。また、人間以外のものに対しても使う。

それが最近では、自嘲のニュアンスを含むようになり、ポジティブなイメージを持つ言葉として広く使われるように

なっている。表面的には役に立たない人間のようなのだが、実は独特な才能を持ち、何かをきっかけにそのパワーが爆発する人を指している。日本の漫画『銀魂(ぎんたま)』のキャラクターであるマダオは「废柴」の代表と言える。現実では、都会にバックグラウンドを持たなくとも、エリートでなくとも、諦めずに夢を目指して頑張る若者が「废柴」を自称している。



■謝東(しゃ・とう)

1992年入局。中国語講座関連の番組「キーワードチャイナ」や「文法ノート」などを担当。言葉は生きものという考えのもと、教えるというよりも、リスナーの皆さんと一緒に勉強していく気持ちで日々努力している。北京市出身。1992年北京師範大学日本語学部卒業。2004年~2005年慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所客員研究員。



今回は、新たにCRI日本語部に加わった日本人スタッフをご紹介します！

「走る通訳兼ジャーナリスト」 足でつなぐ日中間の架け橋

北京生活13年目です。日本の化学メーカー→北京のIT企業→フリーランス、という経歴で、このたびCRIに入局しています。

中国語は、中学・高校・大学で第二外国語として計6年間履修しました。仕事で生かしたかったのですが、日本ではその願いが叶わず、36歳の時に、清水の舞台から飛び降りるような心境で単身北京に渡りました。



河北省滄州市にて、技術者同行通訳

異国での第二の人生。留学経験のないまま、中国企業の社員として中国語漬けの毎日を過ごしました。給与も現地人と同じで、セレブな(?)駐在員とは程遠い、つつましい庶民生活でした。そして中国語に対する興味が一段と強まり、商談通訳の仕事など、「中国語力で食べていきたい」という希望もあり、脱サラしてフリーランスとなりました。翻訳や現場通訳などを経験し、このたび縁あってCRIに入局しています。

さて私は、中学・高校で野球部に、大学では自転車部に所属し、卒業後も自転車競技やマラソンの大会に参加したり、野球をしたりと、長いスポーツ人生を送っています。今もマラソン大会に出場しており、毎年秋

の「北京マラソン」は13年連続で完走を果たし、2010年には自己最高の3時間24分34秒を出しています。



北京マラソン

月間走行距離は250～300km、週末は朝早くから20～25km走っています。中国は市民ランナーが急増し、各地でマラソン大会が開催されています。もうすぐ50歳を迎え、スピードの衰えも感じますが、今でも年に数本のレースに出場しています。

ところで私は、12年前に中国生活を始めるにあたり、中国語を流暢に話せるようになること、マラソンで自己記録を出すこと、中国人と結婚すること、という3つの目標を掲げていました。1番目、2番目に続いて昨年、3番目の目標を果たしました。妻は北京人で、日中両言語の相互学習で知り合いました。国際結婚ということで周囲の関心を呼んでいますが、特に違和感もなく、普通に一緒に買い物や外食をしたり、料理したりしています。



北京 入籍

中国に密着した生活を続けていますが、日本人には必ずしもこうした生活はお薦めしません。日中両国は格差が大きく、対等な交流は難しいと思います。例えば中国人の日本語学習者は山ほどいますが、中国語を話せる日本人は少なく、日中交流会などを開催しても会話はほとんど日本語で、通訳も中国人です。ただこれで円滑にビジネス

交流しているのも事実であり、日本人も同じように中国語を勉強すべきだ、という感情論になります。この問題は微妙ですね。

こう感じる今日この頃ですが、私のような一般庶民の日本人が1人くらいいてもいいと思いつつ、愛車(もちろん自転車)でスーパーマーケットへ通い、「買一送一」(=おまけつき)の食品を買いあさっています。



日本・愛媛県 新婚旅行



■森 雅継(もり まさつぐ)

1968年8月生まれ。早稲田大学商学部卒業。2005年に日本の会社を退職し北京へ。中国企業に6年間勤務し、2011年よりフリーランスの翻訳・通訳。この8月にCRIに入局。中国語のニックネームは「阿森(アーセン)」。

イチオシ! 中国映画 中国音楽



■閔亦冰(みん・いひょう)

音楽や映画、生活などさまざまなジャンルの番組を手がけ、10年以上ラジオのパーソナリティとして活躍。2015年から日本語部映像担当プロデューサー。カメラを通して中国の最新情報と魅力を発信しています。

北京出身。北京外国語大学日本語学科卒。



仍是異鄉人 (Still An Outlander)

李劍青(リー・ジェンチン)
発売日: 2017年7月24日

2014年発表のファーストシングル「匆匆(IN A FLASH)」以来、約3年かけて制作された李劍青(リー・ジェンチン)ファン待望のファーストミニアルバムが遂に完成。

李劍青は広西チワン族自治区出身の40歳。歌手としては比較的遅い初アルバムの発表ですが、実は彼は7歳の頃からヴァイオリンを習い、音楽活動は学生時代から始めていました。2005年、28歳で受けたオーディションをきっかけに、その才能を李宗盛(ジョナサン・リー)に見出され、ジョナサンに弟子入り。10年間の下積み時代を経て遂に2014年にファーストシングルをリリースしたのです。

今作は、田舎から大都会に上京した自分自身の経験を元に、異郷人としての戸惑いややるせ無さを表現した一枚で、郷愁駆られるコンセプト性の強い作品に仕上がっています。全7曲の収録曲は李劍青が自ら作曲し、李宗盛がプロデュースを担当しています。



織謠II (Weaving Song II)

斯琴格日樂(スチン・グリラ)
発売日: 2017年8月16日

2014年にCRI日本語部主催の紅白歌比べ(現:CRI中日歌唱コンテスト)にゲスト出演したモンゴル族シンガー、斯琴格日樂(スチン・グリラ)がニューアルバムをリリース。

今作は、様々な民族言語で全トラックを歌い上げる「民族プロジェクト」の第2弾で、シリーズ第1弾から約一年ぶりとなる新作です。斯琴格日樂(スチン・グリラ)が自らプロデューサーを務めており、各少数民族の持ち味を生かしながら、伝統に現代性を織り交ぜた融合性の強いワールドミュージックのアルバムに仕上がっています。

自身の母語であるモンゴル語による「酒歌(Drinking Song)」や、チベット語の「邦錦梅朵(BANGJINMEIDUO)」、ロシア語の「小路(The side street)/ロシア語」、北京語民謡の名曲「山歌好比春江水(Folk songs like spring water)」など全10曲を収録。

中国エンタメ情報はCRI公式サイトでも続々配信中!
<http://japanese.cri.cn/15home/ent.htm>



戦狼2 (Wolf Warriors 2)

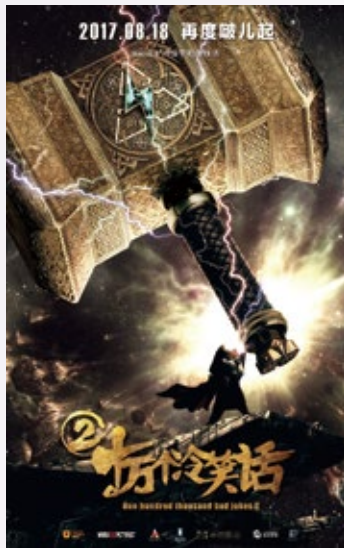
公開日:2017年7月28日
監督:呉京(ウー・ジン)
主演:呉京

フランク・グリロ
廬靖珊(ルー・ジンシャン)
呉剛(ウー・ガン)
張翰(チャン・ハン)

2015年上海国際映画祭の4部門を制覇した『戦狼(ウルフ・オブ・ウォーネイビーシールズ傭兵部隊VSPLA特殊部隊)』の続編が遂に完成。中国のカンフースター、呉京(ウー・ジン)が監督&主演を務めるこの人気シリーズは、中国人民解放軍の活躍を描いたものです。

8月1日の建軍節(中国人民解放軍創設記念日)にちなんで公開され、異例の5週連続1位を達成したほか、興行収入は55億元を突破し、周星馳(チャウ・シンチー)映画『人魚姫(原題:美人魚)』を超えて、中国の歴代興行収入で首位に。さらに世界興行ランキングでは99位にランクインし、同ランキングTop100のうち、唯一の非英語作品として新たな歴史を樹立しました。

痛快なアクションシーンと目まぐるしい銃撃戦は絶対に見逃せません!



十万個冷笑话2 (ONE HUNDRED THOUSAND BAD JOKES II)

公開日:2017年8月18日
監督:盧恒宇(ルー・ハンユー)
李姝潔(リー・シュージエ)

中国を代表するギャグ漫画『十万個冷笑话』の劇場版第2弾がこの8月に公開決定!『十万個冷笑话』とは「10万の寒いギャグ」のことで、中国の漫画家・寒舞による短編集です。

元々は中国のオリジナル漫画サイトで連載されましたが、盧恒宇(ルー・ハンユー)と李姝潔(リー・シュージエ)の監督コンビにより2012年にアニメ化し、中国漫画界で大きな注目を集めました。その後2014年9月に舞台化した作品が上海に登場し、2014年末に劇場版も公開、さらに2015年には携帯ゲームも誕生しました。

今作は3年ぶりとなる劇場版で、広大な宇宙空間を舞台に描かれるファンタジー喜劇になっており、新キャラクターも続々と登場しています。日本の『ONE PIECE』やアメリカのマーベルコミックを彷彿とさせるパロディシーンも多く、中国では類を見ないギャグ漫画の話題作として大きく期待されています。



二十二 (Twenty Two)

公開日:2017年8月14日
監督:郭柯(グオ・カー)

中国初の、慰安婦を題材にした長編ドキュメンタリー映画『二十二』が、世界慰安婦記念日である8月14日より全国で一般公開。本作は郭柯(グオ・カー)監督が5年をかけて完成した力作で、第二次世界大戦中に慰安婦として被害を受けた中国大陸出身の女性22人の現在の生活の実態を記録したものとなっています。すでに亡くなられた方を含め22人が全員実名で映画に登場し、心境を語っているということです。本作は国産ドキュメンタリー映画として初めて興業収入1億元を突破しました。

郭柯監督は以前、32人の元慰安婦を取り上げた短編映画『三十二』を制作し、2014年にアメリカで初公開しています。『三十二』の取材の中で大きな感銘を受けながら、証言のできる元慰安婦の数が減っていくことに無念を感じ、長編映画の制作を決意しました。

今後、この『二十二』の公開で上げたすべての収益を中国慰安婦歴史博物館に寄付する予定です。

「和して同ぜず」 東北アジア書画展2017北京、8月に開催

■文化交流実行委員会

中国国際放送局と中国ラジオ映画テレビ社会組織連合会が共催する大型文化交流イベント『「和して同ぜず」東北アジア書画展2017北京』が8月25日から30日にかけて、北京の民族文化宮で行われました。中国、日本、モンゴル、韓国、朝鮮からの作品およそ150点が、6日間にわたって展示されました。

開幕式には、中国ラジオ映画テレビ社会組織連合会、国家発展改革委員会国際交流センター・一帯一路研究院、中国駐在日大使館、モンゴル大使館、韓国大使館および各国の芸術家や各界関係者など、およそ200人が出席しました。

中国国際放送局の王文俊副局長は挨拶で、『「和して同ぜず」東北アジア書画展』は『一帯一路』（シルクロード経済帯と21世紀海上シルクロード）関係各国、特に東北アジアの近隣国家に対し、多様かつ包摂的なプラットフォームを提供してい

ると述べると同時に、同名のスマートフォン用アプリを同日付けで正式に公開することを発表しました。

このアプリには、作品の閲覧、利用者間の交流、自身の作品のアップロードやネット販売などの機能があり、ユーザーは書画や絵画の展示会情報、芸術家の動向といった最新情報を手軽に手に入れることができます。すでにAndroidOS版がローンチし、2017年10月現在はiOS版の公開に向けて準備中です。

日本から参加した書道家の小林芙蓉氏は、「回を重ねるごとに皆様と顔なじみとなり、ハート・トゥ・ハートで国を越え、交流できることを本当に幸せに思っている。今年の5月に密教の発祥地とされる青龍寺と大興善寺を訪れた（※）。その地で空海が中日友好を願ったように、私も中日国交正常化45周年を記念する意味を込めて、中国国際放送局の協力を受けながら中

日友好記念碑の除幕をさせていただいた。空海は大変すぐれた書家だったことで知られている。空海には遠く及ばないものの、同じ書家として、その中日友好の思いを引き継ぎ、書画を通して文化交流を行い、後世まで伝えていきたいと願っている」と語りました。

朝鮮の芸術家を代表して出席した金哲氏は、挨拶の中で「朝鮮の芸術家も、東北アジアの他の国の芸術家も、同じように芸術を愛する強い気持ちを持っている。『「和して同ぜず」東北アジア書画展』がますます発展し、世界的な影響力を持つような芸術の一大イベントになるよう願っている」と述べました。

韓国から参加した書道家の李信姫氏は、挨拶の中で『「和して同ぜず」』のテーマは自分を失わず、他人を包容するという君子の品格を表している。この展示会をきっかけにして、私たち韓国の芸術家も民間



1.開幕式の様子 2.「未来」青少年展 3.会場での共同制作 4.開幕式での記念写真
5.共同作品「山水の繋がり」

の芸術文化交流の調和の取れた発展により多くの貢献をしていきたい」と語りました。

モンゴルの芸術家からは、ツウロンバトル氏が代表として挨拶し「去年はウランバートルで『和して同ぜず』東北アジア書画展』が行われ、好評を博した。芸術には言葉が要らない。異なる文化を背景に持つ人々も、芸術作品によって直接交流をすることができる。この書画展は各国の人々に対し、さらに深い意思疎通ができるプラットフォームを提供している。この友情が長く続くことを願っている」と述べました。

今年の北京展では、青少年が主役となるコーナーが初めて設置されました。「未来を担う芸術の卵たちの交流」に着目したこの「『未来』青少年展」のコーナーには、各国の子供たちの作品およそ42点が展示されました。

開幕2日目と3日目の会場では、作品を説明するイベントがそれぞれ催されました。

26日の作品説明会は中国国際放送局のラジオリスナー向けに開かれたものです。番組を聞いて申し込んだリスナー20名を対象に、中国の著名な書画家で美術

家でもある兆暉氏によるガイドが行われました。参加者は約一時間かけて作品の魅力をつつぷりと味わいました。

27日は子供向けの説明会が行われました。十数人の小学生たちのガイドを務めたのはCRI日本語部の藍暁芹記者です。CRI朝鮮語部やモンゴル語部のスタッフの協力のもと、子供たちは各国の音楽を聴き比べたり、簡単なあいさつの言葉を学んだりして、他国の文化に触れました。

なお、『和して同ぜず』東北アジア書画展』は2014年に初開催されてから、北京市、湖北省、東京、大阪、ウランバートルの各地で展示会や芸術家の交流を実施してきました。今年はすでに4月に東京都立美術館で、8月に北京の民族文化宮で展示会を開き、これまでに合わせて中国、日本、韓国、朝鮮、モンゴル5カ国の書道や絵画、篆刻、彫刻、磁器などの作品延べ200点近くを展示しています。

※『かけはし2017年夏号』に記事「空海を追いかけて」が掲載されています。



9



10



6



8



7



和して同ぜず・東北アジア書画展アプリ
ダウンロードはこちら

6.小林芙蓉氏による揮毫 7.兆暉氏のガイドによる説明会 8.ゲゲンジョラ(蒙古族・13歳)作品「動物の夢」
9.小林東雲(日本)作品「雪韻」 10.李榮熙(韓国)作品「北漢山・光」

旭東ダイカストグループ・山森一男会長 生涯現役・人生百歳

～モノづくりから高齢者福祉事業へ、第二の故郷で実現させる夢～

道元禅師ゆかりの天童寺がある浙江省寧波市。市内寧海県眠牛山の麓にこの春から桜の林ができた。同地での投資活動を20年以上にわたり続けてきた日本人企業家、山森一男さん(83歳)が率いる旭東ダイカストグループ(本社:神奈川県小田原市)の企業基金が寄贈したもので、植えられた樹の数は3399本に達する。

山森さんは寧波でモノづくりだけでなく、高齢者福祉、人材育成事業にまで活動の幅を広げ、「生涯現役、人生百歳」の目標を第二の故郷で実践していきたいと意気込んでいる。



山森一男会長

◆最高の投資先で人材育成を

日本では第一次オイルショック以降、大手企業の海外投資の加速により、伝統的な系列化した下請け構造は崩壊し始めた。生産量の80%を自動車産業に依存するダイカスト業界でも受注が激減し、企業数は大幅に減少した。

「自動車もいずれ海外に拠点を移すので、周辺産業のダイカストもいずれ海外移転せざるをえない。投資先を考える時、人口が多い上に、近くて、文化的に共通点が多い中国以上の場所は考えられなかった」と山森さんは振り返る。

1986年、山森さんは寧波市政府開発区の企業誘致で初訪中。帰国後、すぐに着手したのは人材育成だった。折しも、その前後に両国の労働当局が技能実習事業の提携で合意し、1984年、中国で「中国職工対外交流センター」が設立されたことに続いて、日本側の窓口組織「財団法人・日中勤労者交流センター」(以下「日中センター」、現「HRsDアジア財団」)も1986年に発足した。旭東はその枠組下で中国からの技能実習生を積極的に受け入れるようになった。

1993年、日中センター関連の訪問団として訪中した際、唯

一の中小企業社長として参加した山森さんに、「ぜひ中国に投資を」という中国側指導者からの一言があった。「それから人生が変わった」と山森さんはいう。

「中国投資は決めていたので、準備も進めていた。それまでに研修を受けさせ、帰国させた実習生がすでに10名ほど。早く現地に彼らの受け皿となる会社を作らねば」

背中を押される思いであったが、山森さんの目に映った当時の中国には、ダイカスト製造に必要なサプライチェーンがまだ整っていなかった。金型の塗布に必要な離形剤を例に、「中国に我々が求める品質のものは無かった」と話す。

無いものは自ら揃えようと、翌年、山森さんは日本のトップメーカーと共に上海で離型剤工場を設立した。こうして、人材から関連産業の環境整備まで、綿密な準備を経た後、1995年に旭東は上海と寧波に立て続けに製造拠点を設け、念願の中国進出の夢を果たした。

技能実習生受け入れ作業は旭東では現在も継続しており、これまでに受け入れ人数が120人を超え、中国の製造現場の中心となる人材を数多く育てた。現地法人を作った際に「日本からの技術者は2～3年で引き上げることができた」というのも、こうした確かな人材ストックが下支えとなっていたからだ。



2015年、地域経済への功績が認められ、王剣侯寧波市副市長から「茶花賞」証書を受け取る山森さん

◆中国進出による新たな成長

中国への進出は、旭東に新たな成長をもたらした。「日本は技術開発を中心に、少量多品種で付加価値の高いものを、中国は量産に対応する」という棲み分け関係ができたという。

しかし、その一方で、相次ぐ中国進出に対して、日本国内では産業の空洞化や技術流出の恐れがあるという批判の

声が高まった。当時、日本ダイカスト工業協同組合の役員であった山森さんも「非難はされたが、歴史の流れを止めることはできない。我々は、世界の壁はいずれ無くなるものだと捉えている。日本が量で競争せず、製品力や生産性などを総合的に開発して、質を高めることで我々の業界は伸びていく」として、良質な競争関係はむしろ成長のバネになると受け止めている。

その上で、中国のビジネス環境については「受注が不安定であったり、品質不良などでリスクがあるが、しっかりとした技術ができていて、製品に競争力があれば、ビジネスとして困ることはない」と評価し、「世間では中国への投資リスクが議論されているが、我が社の場合、嫌な思いをしたことは一度もない。中国は第二の故郷というよりも天国だ」と微笑みながら振り返る。「世間では中国投資のリスクを議論する時に、中国+1、つまり、中国以外の国でも同時に投資するようと言っているが、多大な設備投資を要するダイカスト業のわが社にとっては『チャイナ・プラス・ワン』の相手もまた中国だ」と中国での企業活動にぶれない姿勢を見せている。

しかし同時に、中国のモノづくりを冷静に見つめ、やや厳しめの期待も寄せている。「中国は今や世界の製造基地になっている。モノづくりはほかの国と比べても遜色ない。ただ、ダイカストの真髄はもっと高いレベルにある。将来的に、日本と同等のものが作れなければ、世界では戦えない」



2016年、眠牛山公園での桜の植林

◆社会発展に貢献したい

取材の最後に、山森さんは微笑みながら来春の計画を明かしてくれた。2018年の桜が咲く頃、手塩にかけてリフォームしてきた、高齢者の自立のサポート、そして、モノづくりの現場で使える日本語を教育する人材育成などを一体にした複合施設「英才園」の落成式を行う予定だという。

「生涯現役、目標は人生百歳、これを中国でどう展開していくのが、私の課題。仲間もたくさんいてくれるので、きっと社会の役に立てると思う」

落成式と共に開かれる予定の「旭東山森多彩桜花園～第1回桜まつり」を、今から楽しみだと明るい笑顔を見せた。



2016年、眠牛山公園での桜の植林

[参考]日系企業の中国進出状況

- ◆ 2012年時点で中国進出の日系企業は2万3094社。中国進出の外資企業全体の7.9%を占め、国別では首位となっている。
- ◆ 2012年時点で直接的・間接的な雇用創出は計1000万人以上。
- ◆ 2016年度の営業利益(見込み)を「黒字」と回答した企業の割合は対前年度比4.0%増の64.4%となり、4年連続で6割を超えている。
- ◆ 2016年の貿易実績においても、国別では輸出入ともに2位で、中国の貿易総額の7.5%を占めている。

(出自:中国日本商会『中国経済と日本企業2017年白書』)



■王小燕
(おう・しょうえん)

1999年入局。

日本語部では火曜日の番組を担当。毎週ネットで更新している「CRIインタビュー」では、中日両国の交流に関わる各界の方たちにじっくりお話を伺います。

安徽省出身。北方工業大学日本語専攻卒、北京外国語大学日本学研究センター修了。

中日交流カフェ

この夏、史上最多の日本人学生がCRIを訪問

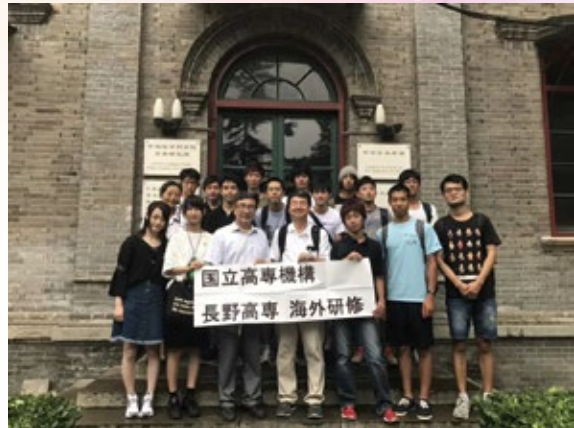
夏休みの時期になると、見学や研修、交流などのために多くの若者がCRIを訪れます。今年は8月中旬から9月初めにかけて、史上最多のなんと100名を超える日本の学生がやってきました。その中から3つのできごとをご紹介します。

長野高専 実務訓練

(8月18日～9月1日)

今年も大矢健一先生率いる長野工業高等専門学校（長野高専）の学生が、実務訓練のため北京を訪れました。2015年の初回参加者は3名でしたが、第3回となった今回の参加者は2年生から4年生までの14人と過去最多になりました。

14人は北京・天津観光のほか、北京青年政治学院の学生との交流会、中国社会科学院日本研究所の訪問、CRIでの実務研修や書道教室への参加、一般市民の自宅訪問など盛りだくさんの日程を過ごしました。



2017日中友好大学生訪中団の 学生100名がCRIを訪問

(8月28日)

8月下旬、日本の大学生訪中団500名からなる「2017日中友好大学生訪中団」が中国を訪れました。中華人民共和国駐日本大使館と駐大阪総領事館に招かれたこの訪中団は6つの分団に分かれ、それぞれ北京市、四川省、貴州省、河南省、上海市の視察や現地での交流を行いました。

そのプログラムの一環として8月28日、学生100名がCRIにやってきました。胡邦勝副局長と日本語部の王丹丹部長が学生らを出迎えた後、局員との交流会が開かれました。

同訪問団にはNHKの中国語講座などで知られる段文凝さんも早稲田大学の引率として参加しており、本誌『かけはし』を手にとってくれました。

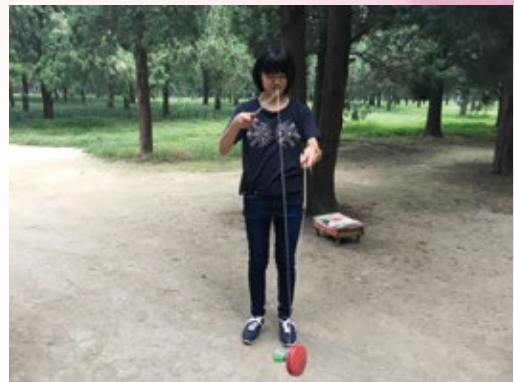
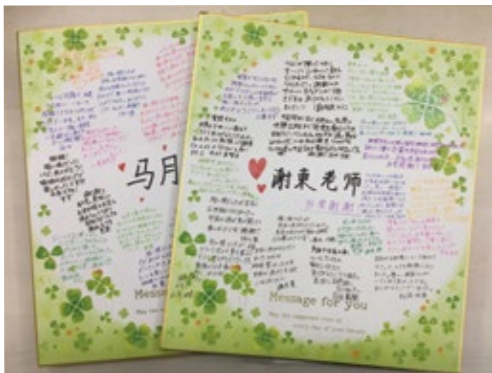


長野県短大 第5回CRI中国語夏季スクーリング

(9月6日～12日)

長野県短期大学の先生と学生18名が、CRI日本語部主催の中国語夏季スクーリングに参加するため北京を訪れました。

参加した学生たちは日本語放送を担当するアナウンサーから中国語を学び、習いたての中国語を使って北京の地下鉄に乗ったり、買い物や食事をしたりするなどの実践をしました。また、北京大学の学生との交流、万里の長城など世界遺産の見学、CRIと中国国際放送ネットワーク(CIBN)主催の「2017年中日歌唱コンテスト」の観戦など、充実した一週間を過ごしました。



工学院大学孔子学院より

当コーナーでは、2017年5月をもってCRIを退職した高橋恵子アナウンサー(現・工学院大学孔子学院学院長)からのメッセージを毎号お届けしています。

その2「孔子学院の日」

■高橋恵子

CRIにいた時は、日本と中国と国は違えどもアナウンサーという36年間携わって来た仕事ですから、戸惑うことはありませんでした。でも、今回の学院長という仕事は私にとっては未知の領域。試行錯誤の毎日ですが、50代も半ばを過ぎて新しいことに挑戦できるのは幸せなことだと感じています。

学院では日常の語学、文化、教養講座の他に様々なイベントを行っています。10月1日は「孔子学院の日」と銘打ってチャイナドレスのトーク&ショー、試着コーナー、中国医学と最先端医学の講演など盛りだくさんのイベントを実施しました。

想像以上にお客さんが集まり、何より嬉しかったのは皆さんが笑顔で帰って行ったこと。新しい仕事だと思っていましたが、今までの経験も活かすことができそうな予感です。



リスナーからのお便り



「かけはし」や番組へのご意見・ご感想をEメール、お便り、SNSなどでお寄せ下さい！

E-Mail: riyubusns@126.com
 郵便(日本): 〒152-8691
 目黒郵便局 私書箱78号 宛
 郵便(中国): 100040
 中国国際放送局日本語部 宛

番組の感想



■番組名: 中日交流カフェ
 ■兵庫県明石市 矢倉徹也さん

バレンタインに七夕にと、中国の男性は女性にプレゼントを贈る機会が多くて大変ですね。私の妻は中国人ですが、日本で生活しているのでこれらのプレゼントには期待していません。時には王洋さんのようにサプライズプレゼントをしたいと思います。



■番組名: 中国暦
 ■三重県津市 川添充則さん

北京市民は国慶節の旅行に、距離と質を求める傾向があるという話を聞いて、旅行を十分に楽しみたい考えを持っているという印象を受けました。また、1995年以降生まれの新たなブルーカラーの人たちは職業訓練を受ける意欲が高いのだと知り、自己投資をする前向きな姿勢に好感が持てました。



■番組名: 国交正常化45年の歩み
 —あの日、その時
 ■千葉県千葉市 富田敏明さん

番組を聴いて、「水を飲む時は井戸を掘った人のことを忘れてはならない」という言葉の通り、今を生きる私たちは先人の努力を考え、両国はお互いに友好発展のために努力すべきだと思います。



■番組名: 国交正常化45年の歩み
 —あの日、その時
 ■神奈川県川崎市 及川三晶さん

日本を訪れる中国人観光客の旅行の楽しみ方が「爆買い」から「体験」へと少しずつ変化していて、地元の人とふれあえる民宿、金箔工芸、染め物、茶道、自然体験など、地域ごとの文化を体験する旅が特に人気を呼んでいるとのこと、興味深く聴きました。中日の人的往来が成熟期を迎えつつあることを感じます。



■番組名: 国交正常化45年の歩み
 —あの日、その時
 ■宮城県仙台市 秋葉浩之さん

以前は中国を生産拠点として位置付け、進出する日本企業が多かったですが、最近では中国の内需に着目して進出する企業も増えています。中国人の所得向上が著しい昨今、訪日する中国人観光客の爆買いは今でも話題に上ります。豊かになった中国の購買力は、世界経済に好影響をもたらすものと期待しています。



■番組名: 中国暦
 ■神奈川県横浜市 近藤真平さん

中国一のお金持ちの村といわれる江蘇省の華西村を初めて知りました。中国にもそんな豊かな村があったのかと驚き、純金1トンを使った牛の像があることにもびっくりしました。一方で、日本の米作りを学んで導入するなど、良いものを積極的に取り入れようとする姿勢が見られ、そうした向上心が豊かな村を生んだようにも感じられました。

編者後記

45年前の秋、1972年9月29日に中日共同声明が調印され、周恩来首相と田中角栄首相が北京で固い握手を交わしました。それから45年後の今年9月、当時の関係者たちの親族や中日友好事業に携わる人たちが、この大切な節目を記念する様々な交流イベントを各所で開催し、国交正常化の歩みを祝いました。今号では、CRI日本語部主催の「中日国交正常化45周年記念特別企画～2017中日歌唱コンテスト」をはじめ、今年開催された記念イベントにクローズアップしています。

また、今年是中国国内にとっても重要な年で、国際社会から注目される5年に1回の中国共産党全国代表大会が10月に開かれました。習近平氏は政治報告の中で「長期にわたる努力を経て、中国の特色ある社会主義は新時代に入った」と述べ、今後の発展の方向性が定まりました。今号では第19回党大会についての話題もお届けしています。(趙雲莎)

東方新報

徹底して“オリジナル”を追求します。

《東方新報》は1995年に創刊。日本全国に発行され日本で最も影響力のある華文メディア社です。また当社新聞は、中国南方航空の日-中便すべての機内紙として搭載している日本で唯一の会社です。オリジナルティある報道を堅持し、最大の真実、オーソリティを追求し続ける、最も新鮮な日本および華人社会のニュースを提供しております。

《東方新報》WeChat



《東方新報》WEB



上のQRコードをスキャンしてください。



定期購読：半年 6,000円
定期購読：一年 9,800円
定期購読：二年 19,600円

お申込みはこちら ☎ 03-3981-2701 (平日 AM9:00~PM6:00)

■発行 日本華伝媒株式会社
■編集部 03-3981-2705
■投稿メール tougao_xinbao@163.com
■WEB <http://www.livejapan.cn>

■広告総代理 株式会社 東方インターナショナル
■電話 03-3981-2701 FAX 03-3981-2706
■住所 〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-23-2-6F
■振込口座 りそな銀行池袋支店(普) 5116180 名義:トウホウシンポウ



■ SNSで観るCRI (各SNSプラットフォーム)



@CRI日语频道



@CRIJpn



CRI日语频道



CRI日本語



CRI日语部



YouTubeアカウント
CRI日本語



CRIの人気番組をPodcastでも配信中!

iTunesや対応アプリから「CRI」で検索。

配信番組: CRIニュース、ハイウェイ北京、中国語講座 ほか